

**[遺族] 根本 圭佑 氏（平成 21 年（当時 6 歳）、父を交通事故で失う）**

**[要旨]**

### **○当時の状況**

小学 1 年生の時に父を交通事故で亡くしました。父が亡くなったことを知らされたのは、学校にいた時でした。父方の実家で父に直面した時、初めは父は寝ていると思ったのですが、母達の様子を見て「ああ、亡くなったのかな」と思いました。葬儀の間も、全く実感はありませんでした。後になって、父がいないことにだんだんと気が付いていったという感じです。

父の亡くなった状況は、前に走っていた車に父がバイクで追突したという話だったのですが、詳しい内容は分かっていません。現在はドライブレコーダーの普及が進んでいますが、当時からそのような状況証拠を把握できる手段があれば良かったのと思います。

### **○遺された親の支援も必要**

一番支えてくれたのは母です。母は元々仕事をしていたのですが、より一層頑張ってくれるようになりました。自分が部活動を続けていられるのも、全部母のおかげです。母は、仕事の頑張り過ぎで体調を壊すことがあったのですが、まだ小さかった自分は何もすることができませんでした。自分達の世話を見てくれた祖母にも大変感謝しています。

もちろん自分も悲しいのですが、遺された母や父の親のほうが絶対にもっと悲しいと思うので、周囲の人には母や祖父母のほうにも気持ちを傾けてくれるとうれしいです。

交通遺児の団体からの支援もあり、生活が成り立っていました。今、大学に通えているのもその支援があるからこそなので、大変有難いと思っています。現在は、交通遺児育英会が運営している寮「心塾」に在寮しております。そこでも大変お世話になっています。

つい最近、自分が大学に行ってから、やっと母が自分の趣味を持てるようになりました。ここまで十数年間、母は、自分の好きなこともほとんどできない状況であったり、休日もずっと疲れ果てていた様子だったので、母の生活の支援、遺された親の支援も考えてほしいと思います。